



## 説教要旨「いつも喜んでいられますか」

テサロニケの信徒への手紙Ⅰ 5章 16～24節

「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい」。

(Ⅰテサ5章16節)

このみ言葉を大真面目に受け止めようとするならば、考えようによっては、聖書の中で最も厳く、最も残酷なみ言葉だとすら言えるかも知れません。

この手紙が宛てられたテサロニケの教会は、パウロが直接赴いて建てられた教会です(使徒言行録17章)。しかし、この町のユダヤ人たちの陰謀によってパウロは逃げるようにこの町を後にしました。心残りだったことでしょうし、残された信徒たちのことが心配でたまらなかったことでしょう。そのような思いでパウロがしたためたのが、このテサロニケの信徒への手紙です。その手紙の締めくくりとして、「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい」と勧めているのです。

テサロニケに残っている生まれて間もないテサロニケの教会の信徒たちが、ユダヤ人からの妨害、嫌がらせを受け続けて、いつも喜んでいることが困難な状況におかれていることをわかっていて、それでもパウロは、そのように勧めているのです。それは、あなた方にはいつも喜んでいてほしい、絶えず祈っていてほしい、どんなことにも感謝していてほしいという願いです。

だからこそパウロは23節でこう祈るのです。

『どうか、平和の神御自身が、あなたがたを全く聖なる者としてくださいますように。また、あなたがたの霊も魂も体も何一つ欠けたところのないものとして守り、わたしたちの主イエス・キリストの来られるとき、非のうちどころのないものとしてくださいますように』。

いつも喜ぶどころか、怒ってばかり。絶えず祈るところか、神様のことを忘れて、神様とは関係なく過ごし。どんなことにも感謝するどころか、不平不満ばかりのわたしたちが、いつも喜び、絶えず祈り、どんなことにも感謝するものへと、神様が造り変えて下さって、救い主イエス・キリストをお迎えすることができるよう、共に祈りを合わせて参りましょう。

(2022・12・11 説教者：稲垣真実)